



2021年を振り返って

MJCC マニラ日本語キリスト教会

早野兄天に召される



1948.12.12~2021.8.23

8月23日23時52分、早野由和兄が、コロナ感染後酸欠によって天に召されました。73歳でした。(写真：7月17日自身が経営するレストランにて撮影)

MJCCと 早野兄 / 1988年初め頃、奥様富美子さんが同じ地区に住むご夫妻に誘われ、女性集会に出席。その時はJCFとして古いユニオンチャーチ・ビルの小さな聖歌隊室での集会でした。当時息子さん隆行くんが7歳頃、土曜朝の教会学校に参加し始めました。ある日、早野兄が隆行くんの聖書を手に取って読み始めました。早野兄は、言った。「ここには良いことがある！」そして、富美子夫人もビックリ!? ある日曜日、早野兄は、奥様と一緒に教会に行くと言いました。それ以来、彼は毎週日曜日に教会に行きました。それは、JCFをJune先生がカルロ一宣教師から引き継いでいた1989年でした。その後彼は信じて洗礼を受けたいと告白。富美子夫人は乗り気ではありませんでしたが、夫と一緒に洗礼準備の学びを始めることに同意した。そして、1990年7月1日ケソン市デリマン聖書教会にて礼拝後ご夫妻揃って洗礼を受けました。JCF会員も全員参加して喜びに満たされました。June先生は当時を回想し、「Hayano Kyodai Shimai were a great joy to me and it was lovely to see their faith and growth in grace and knowledge of the Lord Jesus Christ.」と深く悲しまれてました。1994~1997年June先生ご夫妻がイギリスに戻られた時、早野兄姉がJCFを支えていました。早野兄は、教会を襲った多くの試練と困難の中を耐え忍びました。1996年には教会がリニューアルされマニラ日本語キリスト教会(MJCC)が誕生しました。その後June先生がマニラに戻られた1997年からのMJCCは、豊かに祝福されました。早野兄は、教会役員と会計及び監査人として奉仕され教会成長に大きく貢献されました。

早野兄の好きだった讚美歌は、「LP27 日の昇るところから、その沈むところまで、主の名はたたえられる。…」また、好きだった御言葉といつも実践されていた御言葉は、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。」1テサロニケ 5:16-18

モンテルパの夜は明けてのジョージ兄改め「利光宏文兄」 念願の帰国が実現！MJCCからICF名古屋ナザレン教会へ



11/21 MJCCオンライン礼拝と送別会

1964年12月4日生まれの利光兄は57歳の誕生日に、ずっと祈り続けてきたお母様との再会が遂に実現しました。これまでお母様に心配をかけたくない思いから、ジョージ兄の仮名を使っていましたが、この日初めてモンテルパ収監生活からすべての過去をお母様に告白しました。お母様は、すべてを受け入れて赦してくださいました。お母様も、ご主人の植下様もクリスチャンでこちらの教会で奉仕をされてきたことを知り、利光兄は神様の導きの深さに驚きました。又、仕事についても会社が気遣ってくださりました。予定していた土木工事作業員ではなく、社員食堂での厨房の仕事を任されることになり、神様からの誕生日プレゼント！と感謝しました。その後信頼されて少しずついろいろと役目を任されています。11/19出国後名古屋空港の隔離ホテルで帰国後最初の日曜日(11/21)を迎えた利光兄は、MJCCのオンライン礼拝に参加。初めてのバブルタイムの中その日の聖書箇所について、牧師のようにコメントをして皆を驚かせました。最後に全員でお祈りしGod Bless Youを賛美して利光兄を送り出しました。空港でのピックアップ、自主隔離のホテルの手配、住民登録、就職、ICF名古屋への入会。すべてを引き受けてくださった大岡牧師に感謝するとともに、神様の偉大なご計画と主のご愛に感謝し、御名を褒め称えます。



インタークリスチャンフェローシップ名古屋
ナザレン教会 大岡代表牧師(右)



12/5 ICF名古屋にて
「人生やり直しができる」
ことを証する



12/4 (株)メイセイアドバンス
入社初日



12/4念願叶ってお母様と再会
30年ぶり!

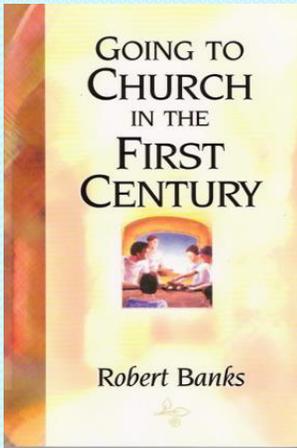
クリスチャン生活は「パラダイムの転換」 考え方を変えることから始まる。 2022年は、新生していることを自覚する年。

2022年MJCC年間聖句

ローマ人への手紙 12章 2節

「建て上げられるべきクリスチャン人生」は、確かな福音理解に基づき、「神の先行的救い」である福音を信じて踏み出す意志、また、神の規範に基づき理性を駆使して自分の考え方を変え、自分の生き方を誰もが見えるように変える意志的取り組みということになる。これが神の意図です。（読書会の学びから） 2022年のMJCCは、キリストにある変革への自覚の年です。私たち一人一人が、いつまでも「キリストにある幼子」ではなく、「御霊に属する人」として歩んでいるかどうか、日ごとに自分自身を客観的に（自分が神様との関係においてどういう状態にあるのか）観察し、新生を自覚して過ごす一年としたい。私たちの内に宿っている聖霊を常に意識して、絶えずキリストにあって古い自分に死んで、新しさに生きていることを継続的に自覚し成長し続けたいものです。また、MJCC長老会は、神の家族教会に与えられている二つの礼典、「バプテスマ」と「主の晩餐記念」についてを手始めに、聖書の規範に基づくパラダイムの転換を進める新しい年にしたいと考えています。

読書会



2021年8月25日を皮切りに、オンライン会議ソフトを用いてネットワークを介し、毎月第2、第4水曜日に開催しています。（フィリピン時間午後7時）参加者はMJCCと恵み会から合わせて12名。フィリピン8名、日本3名、シンガポール1名という構成です。進め方は4月に初版が発行された「教会・神学校に迫られるパラダイムの転換」を各自事前に読んでおきます。そして、各章毎に割り当てられた担当者が要点をまとめ準備したものを発表します。発表後に問答したり意見交換するというスタイルで学んでいます。1回の開催で1章ほど進めており、22年3月に終了する予定です。読書会の特徴としては著者である森谷正志先生（CBTEジャパン代表）と一緒に参加されています。各々が理解した内容や要点をディスカッションすることによって知識を深め合うことができるというありきたりの読書会ではありません。わからないことを直接著者ご本人に質問できるという大きな恵みに預かっています。

自分一人で読んでいたらよく理解できなかつたけど、この読書会を通して御言葉の真理を理解できた。「目から鱗が落ちたようだ」と皆、異口同音に満足の感想を漏らしています。

9回の学びを終え、これから後半に入ります。これまでの学びを通して参加者各々が「パラダイムの転換」を迫られているのではないのでしょうか。

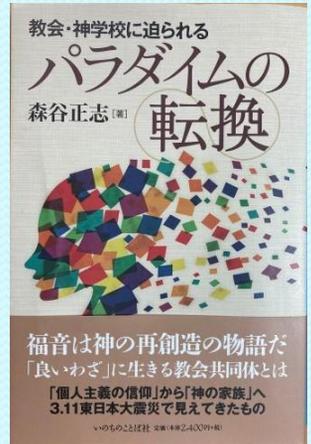
奥野兄入会式



嬉しいお知らせです。新しい家族が一人増えました。6月20日に奥野啓二兄（1964年生）の入会式を行いました。奥野兄は2019年11月にマニラに赴任されました。途中コロナウイルスの影響で約1年日本に一時帰国しましたが、2021年3月に再びマニラに戻ることができました。兄は12弦ギターと電子ピアノを自ら奏でて歌うことができ、母教会の埼玉国際キリスト教会では奏樂の奉仕をされていました。MJCCでもその経験を活かし礼拝賛美ミニストリー・グループを中心に奉仕されています。フィリピンの地においても主が奥野兄の賜物を用いてくださることを祈ります。

（※ 入会式における証を添付いたします。）

この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。



原田姉送別会

2020年10月25日に洗礼を受けられた原田美樹恵姉が5月末に本帰国となりました。コロナ禍で共に集まることはできませんでしたが、5月23日オンライン礼拝後にお別れ会を行いました。お別れ会では、MJCCに集う者たちから動画メッセージを流したり、原田姉についてのYES/NOクイズで楽しい一時を過ごしました。ところが、予期せぬ出来事が起こりました。PCR検査の結果がまさかの陽性??? 無症状でしたが出国延期を余儀なくされました。6月26日紆余曲折を経ての出国。息子さんの待つ千葉県へ戻れたのは7月2日となりました。帰国後LINEのコミュニケーションをマスターし、マニラの兄弟姉妹との交わりが継続しています。現在もコロナ禍ということもあり地域教会に通えるようになるまでは引き続きMJCCのオンライン礼拝に参加しています。